

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている	一般小売店 〔酒〕（経営 者）	単価の動き	・このところ高額商材の売行きが大変堅調であり、6月はその動きがより一層顕著に表れている。特にワイン、シャンパン、ウイスキーといった商材で客単価が顕著に上がっている。
		観光名所（従業 員）	来客数の動き	・6月25日現在、来客数が前年比129.9%と大きく伸びている。特に中国本土からの団体観光客の増加が著しい。
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	来客数の動き	・6月に入り、来街者の服装をみると、例年よりもビジネス客が多かった。土産や夜の飲食の売上は普段と変わらなかったが、宿泊、駐車場を含めた交通関連、昼の飲食などが売上を伸ばした。景気の動向としては、原材料価格の高騰や電気料金の値上げの影響を受けつつも、ビジネス関連が活発化しつつあることから、わずかながら上向いている。
		商店街（代表 者）	販売量の動き	・大きな回復基調はまだみられないものの、家電関連を除けば若干だが前年を上回っている店舗が多い。ただ、店舗による格差が激しいため、景気の回復感は店舗によりさまざまである。その一方で、先行きを悪く言う人が少ないため、全体的には景気回復が進んでいる。また、外国人観光客をターゲットにした新規出店が大手を中心に加速しており、地域活性化に向けてのヒントがうかがえる。
		一般小売店〔土 産〕（経営者）	来客数の動き	・依然として航空機の乗降客が前年を5%程度上回っており、それに比例して、当店の売上も前年を5%上回る状況が続いている。
		百貨店（販売促 進担当）	来客数の動き	・6月初めは来客数、購買率、客単価のいずれも苦戦していたが、10日以降は持ち直し傾向となっている。客単価、購買率とも前年を上回って推移しており、売上も前年をクリアする日が続いている。
		スーパー（役 員）	お客様の様子	・中元ギフトの販売が好調である。客単価も前年を5%程度上回っており、客に少し余裕が出てきたように感じられる。
		コンビニ（店 長）	来客数の動き	・6月の売上は、めん類やベーカリー、デザートなどの商品力の向上が奏功し、前年比103%と前年を上回った。
		高級レストラン （スタッフ）	お客様の様子	・平日は観光客、特に年配の夫婦の来店が顕著であり、なかには、ようやく来ることができたと有り難い言葉をかけてくれる客もみられた。一方、週末は地元客が目立った。開店と同時に満席となる日もあり、全体の売上は前年を少し上回った。
		スナック（経営 者）	来客数の動き	・少しずつ観光客が増えているなかで、一般客も飲食店街に出てくるようになってきている。
		観光型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・近隣アジアからの外国人観光客の団体旅行が好調である。国内客は、個人型のビジネス、観光ともに堅調である。
		旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・羽田便の供給座席数が増加したことから、外国人観光客の入込が伸びている。また、医学系の学会や学生のスポーツ大会、合宿などが管内で実施され、人の動きが活発化している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・6月はYOSAKOIソーラン祭りなどのイベントやお祭りがあったことから、タクシーの売上が前年を上回った。夜の人も前年より増えている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・6月に入り、競馬開催が始まったことなどから、人の出入りが多くなっており、特に観光客の入込が増えている。売上も3か月前に比べると14.8%も増加しており、前年と比べても7%程度増加している。
		タクシー運転手	販売量の動き	・タクシーの乗降客数はほぼ横ばい状態であるものの、貸切バスの稼働率が向上している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・例年と比較して、輸送量は全体的に減少しているものの、観光シーズンを迎えたことで、特に乗用車が増加傾向にあり、3か月前よりは上向いている。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・客が消費税増税の影響に慣れてきているなか、株価の上昇傾向が続いていることから、徐々に高額商材にも消費が回ってきている。
変わらない	商店街（代表 者）	販売量の動き	・全体的には買い控えの消費行動は変わっておらず、変化はみられない。	

商店街（代表者）	お客様の様子	・今のところ、客の反応は前月と同じようであり、変わりがみられない。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・店内改装に伴う販売面積の減少といったマイナス要因もあるが、外国人観光客による売上が前年比240%と大きく伸びている一方で、来客数はほぼ前年並みで推移しており、全体売上は前年割れとなった。ただし、定価品の売上がほぼ前年並みであったこと、父の日や中元の売上が2けたの伸びとなったなど、結果の出ている部門もみられる。
百貨店（担当者）	来客数の動き	・客単価は変わらないものの、来客数が減少している。
百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・近隣に競合する商業施設が開店して以降、来客数が減少傾向にある。客単価は前年を上回っているものの、店舗内の買回りが顕著に悪化しており、特に食料品の苦戦が目立っている。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の減少が継続している。
スーパー（企画担当）	お客様の様子	・全体のムードとしては、株式を所有していない人までもが株価高騰の恩恵を受けているような雰囲気があり、何かほんの一押しで消費が上向きそうな気配がある。ただ、従来どおりの手法では難しい。
スーパー（企画担当）	単価の動き	・一部の加工食品の店頭売価が上昇してきているが、大方の商材は競合他社の低価格政策もあり、上昇局面にはない。特に最近ではコンビニエンスストアにおいても特売チラシを折り込むなど、従来にない価格競争の激しさが感じられる。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・6月は前年との気温差が大きいことから、飲料水やアイスクリームの売上が前年と比べて大きく減少している。ただ、そうした状況のなかでも、高額商材の動きは良い。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・6月は天候が悪かったことが大きく影響し、特に夏型商材で売上の減少がみられる。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・6月は低温の影響が大きく、浴衣などの夏物商材の動きが鈍かった。催事の売上は前年並みであったが、客単価が上がった一方で、来客数が減少した。また、プレミアム付商品券の購入に伴う出費が家計に負担をかけてしまっている面もうかがえる。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・6月の売上は前年を下回った。特に夏物商材が動いていない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量も売上も前年並みで、景気が上向いているとは思えない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量が増えるような、これといった要因がみられない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量や客が落とすお金の金額をみても、景気が良くなっているとは全く感じられない。ただ、北海道という土地柄、例年、4～5月が盛り上がり6月が夏枯れで落ち込む時期であるため、全体としては変わらない状況にある。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・例年、売上の落ち込む時期であり、今年は人事異動なども絡んできているため、6月の販売量はそれほど多くなかった。
乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新型車投入後も販売量に回復の兆しがみられない。客の動きにも変化がなく、見込み客も、購入予定客も増えてこない。
自動車備品販売店（店長）	競争相手の様子	・カー用品店ではスタットレスタイヤの商談会を例年8月に行っているが、今年は売上確保のための取組として、7月からスタートする予定となっている。
その他専門店【医薬品】（経営者）	単価の動き	・客の動きをみると、必要品を吟味し、購入を後回しにして、結局買わない傾向がみられる。
その他専門店【ガソリンスタンド】（経営者）	販売量の動き	・石油価格が安定しているため、変化がみられない。
高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・円安にともなう物価の高騰が不景気感を助長している。

	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・売上は前年並みとなったが、客の流れが読みにくい。少ないながらも新規顧客がみられる一方で、いつも来店していた客がめっきり来なくなったりもする。食料品の値上げが続くなか、良質の食材を使った割高のメニューが敬遠されるようになってきており、地元客の単価低下は徐々に深刻さを増している。先日、顧客の服飾店を訪ねたが、ポイントアップの日だったらしく、混雑していた。しかし、普段の日は客入りが良くないらしく、売上の良い人気百貨店に出店していても特典がないと客を呼べないとこぼしていた。
	観光型ホテル (役員)	来客数の動き	・個人客は増加しているが、料金改定により貸切観光バスの運賃が高騰したため、外国人観光客の団体利用の減少が目立つ。また、本州方面からの団体客も同様に減少しており、来客数が全体的に微減している。
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・株価上昇などの効果もあり、ある一定クラス以上の顧客の購買力は堅調だが、若者や子育て世代などの旅行需要が低調である。インターネットでの購入やLCC利用に流れている客も多い。
	タクシー運転手	来客数の動き	・観光面では、貸切バスの問い合わせはあるものの、タクシーやハイヤーの実績は前年並みにとどまっている。ただ、バス事業者に尋ねたところ、問い合わせがあるものの、ドライバー不足で受入できない現状であり、実績が伸びているわけではないとのことであった。
	タクシー運転手	販売量の動き	・当社の社員の高齢化にともない、社員の減少が続いている一方で、他産業での雇用が増えているため、新入社員を確保できていない状況にある。賃金を上げるなど、雇用条件を改善できるような要素もないため、人員減による収入の減少が続いている。
	通信会社(企画担当)	販売量の動き	・道内の都市部、地方を問わず、店舗への来客数が前年に比べて少なく、特に平日の昼間が開散としていることで販売機会を失っている。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・引き続き売上が前年を3%程度上回る状況が続いている。ここ3か月、売上が安定しているため、変わらない状況にある。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	お客様の様子	・天候不順で例年より気温が低く、初夏らしい季節の変わりを感じられないため、夏物が不振である。肌の露出がないので、腕時計やアクセサリーの売上も不振であり、特に高額商材が厳しい状況である。
	一般小売店[土産](経営者)	来客数の動き	・天候不順の影響もあるのかもしれないが、初夏を迎えて増えてくるはずの日本人観光客が本当に少なく、どの店もなぜだろうと首をかしげている。売上は前年比98%とまずまずだったが、ムードの悪さが気がかりである。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・前月までは販売量も来客数も少しずつ上向きになってきていたため、景気回復の兆候ととらえていたが、6月に限っては販売量が前年比81%と非常に悪かった。
	スーパー(役員)	来客数の動き	・駅前に大型店の出店があったことで、当地区のチラシ競争が激しさを増し、来客数が分散している。地域の景気が悪化しているわけでもないが、しばらくは当該店舗の来客数は今まで以上に減少することになる。客単価が前年を2~5%程度上回っている一方で、買上率や来客数がやや落ち込んでいることから、売上は前年から1%強落ち込んでいる。
	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・ロシア200海里内でのさけ・ます漁の出漁遅れや漁獲割当量が前年の3割に減少していることに加えて、来年以降のさけ・ます漁自体が中止となる見込みであることから、心理的にも買い控えがみられ、来客数や客単価の落ち込みが大きい。また、天候不順の影響により農家の牧草刈作業の中止が続いていることも影響している。
	衣料品専門店(店員)	来客数の動き	・出店している施設内の来客数が少ない。
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・長引く円安、客の欧州離れ、MERS(中東呼吸器症候群)による風評などにより、海外旅行の申込客が明らかに減少しており、景気が悪い方向に向かっている感が否めない。
	住宅販売会社(役員)	来客数の動き	・分譲マンションのモデルルームへの来客数がやや減少傾向にある。

	悪く なっている	百貨店（売場主 任）	来客数の動き	・6月に入り、天候不順が続いていることで、紳士物、婦人物とも、衣料品の動きが厳しく、売上が前年比93%となっている。夏物のセールも前年は6月下旬から始まったが、今年は7月からのスタートに変更されたため、下旬の売上が今一つ伸び悩んでいる。6月から立ち上がったお中元は前年並みで推移している。
		タクシー運転手	販売量の動き	・タクシーの運行本数が前年を下回る状態が続いている。特に昼間の乗客の減少が著しい。客の消費マインドは、購入対象の商材によって大きな差があり、生活費の儉約を感じる。
企業 動向 関連 (北海道)	良く なっている	家具製造業（経 営者）	受注量や販売量 の動き	・首都圏の好況にけん引される形で都市部の景気が良くなりつつある。
	やや良く なっている	その他非製造業 〔鋼材卸売〕 （役員）	受注量や販売量 の動き	・設備案件が重なったことで、全体売上は前年並みを確保できた。ただ、売上構成をみると、一般商材の売上が約70%と低迷しており、3か月前と比べると弱含みの状況にある。
	変わらない	食料品製造業 （従業員）	受注量や販売量 の動き	・3か月前と比べると若干勢いが落ちてきているが、前年よりはまだ良いため、全体的には変わらずといった状況にある。
		輸送業（営業担 当）	取引先の様子	・ダンボール原紙の国内販売が低迷していることで、当地区の工場の一部生産調整がなされており、本州地区向けの輸送量が落ちこんでいる。
		金融業（企画担 当）	それ以外	・建設業は、公共工事の発注が減少し一服感がある。個人消費は、賃金に明確な改善がみられない一方で、電気料金の値上げや日用品、食料品などの身近なもので値上がりが見られ、節約志向が強まっている。観光関連では、外国人観光客の大幅増加により、ホテルや旅館、菓子メーカーが好調である。
		司法書士	取引先の様子	・旅行関連や観光バスなどを主な業務とする取引先においては、外国人観光客の増加により景気が上向きであり、設備投資なども活発に行っているが、不動産関連は売買取引を始めとして全般的に消極的である。例年であれば時期的にも上向きになるはずだが、今年は低調なままである。
		司法書士	取引先の様子	・例年に比べて、土地の売買、建物の新築が少ないままである。
司法書士	取引先の様子	・土地売買の低迷により、新築建物の建築数も伸び悩んでいる。また、マンションの新築着工件数も少ないため、不動産取引の成約も芳しくないなど、全般的に景気が停滞している状況にあり、以前と比較しても変化がみられない。		
やや悪く なっている	建設業（従業 員）	取引先の様子	・基礎工事関連の労務者が相変わらず不足しているものの、仕上、設備工事関連の労務者が余剰状態にある。建築工事の稼働量が全体的に落ち込んでいることがうかがえる。	
	輸送業（支店 長）	競争相手の様子	・同業者からも荷動きが良くないとの声が聞こえる。荷主からは、同業各社が頻繁に営業に訪れ、暇なので荷物が欲しいといった話をしていると聞いている。	
	その他サービ ス業〔ソフトウ ェア開発〕（経 営者）	受注量や販売量 の動き	・年度が替わって一服しているのか、新規案件の着手が遅れている。	
	その他サービ ス業〔建設機械 レンタル〕（総 務担当）	受注量や販売量 の動き	・5月以降、販売量が前年割れしており、日を追うごとに前年割れの状態が厳しくなっている。	
	悪く なっている	-	-	-
雇用 関連 (北海道)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・派遣の依頼と中途採用の求人が増えている。派遣については引き続きコールセンターからの依頼がおう盛であるが、これに加えて事務系や販売系の依頼も順調に増えている。求人については営業、経理、プログラマーの要望が多く、企業の業績がやや回復しているように見える。
		求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・基幹産業の農業は生産性が良いこともあり、農業を中心に派遣、パートの求人数が増加傾向にある。

	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・運輸系の求人が増えており、ここに来て人の集まりも若干上向いてきている。生活関連サービスや清掃、警備も求人意欲が高い。一方、派遣や紹介などはスタッフの集まりの悪い状態が続いている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数が64か月連続で前年を上回り、さらに常用パートを含む常用求人の占める割合が74.2%と前年より4.6%増加していることから、景気はやや良くなっている。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・有効求職者数が3か月連続して前年を下回っていることもあり、有効求人倍率が3か月連続で前年を上回るなど、高い水準を維持している。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・企業側の採用意欲は非常に高く、中小企業から学内単独説明会の開催希望が多く寄せられている。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年と比べて求人広告の掲載件数が増えている。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・正社員の求人件数が十分とはいえず、職種などにも偏りがみられる。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数の増加傾向が続いている。新規求人数は前年を0.8%上回り、18か月連続で前年を上回っているほか、月間有効求人数は前年を4.9%上回り、27か月連続で前年を上回っている。
やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上が前年を10%下回った。特に上位業種の小売、飲食、加工製造で激減した。
悪くなっている	-	-	-